

シビル NPO の現状と今後を考える ラウンドテーブルミーティング in 仙台 —地域活動の一層の進展に向けて— が開催されました

去る 11 月 18 日(水)午後、まさに土木の日に仙台にお邪魔して、土木学会シビル NPO 推進小委員会(教育企画・人材育成委員会)と NPO 法人シビル NPO 連携プラットフォーム(CNCP)の共催で、標記の集まりを開いた。会場は「エルパーク仙台」と言う、地下鉄・勾当台駅に至近の公共施設であった。ここでは、開催趣旨の詳細など既往において記しているの、以下、結果について記すことにする。

なお、参加者については、各方面のご後援を頂き、併せて様々のチャンネルで参加を募ったが、結果、一般参加は 18 名と低調に終わり、広い会場が若干寂しげであった。学会・CNCP の関係者計 11 名に、お話しを頂いた講演者 3 名を加えて総勢 32 名であった(専門メディアの取材は 1 社)。参加者の内訳は GC 関係が最多で 11 名、コンサルタントは 5 名であったが、ともに NPO 活動に参加されていない方々であった。発言を期待した既 NPO 参加者や官公庁関係者は残念ながら各々 1 名だけであった。

◎東京からの挨拶と報告

冒頭に山本卓朗 CNCP 代表理事から、CNCP を設立して以来、社会の課題にどのように応えるか試行錯誤している、学会と連携して前進していきたいと考えており、本日も一緒に考えていきたい旨の挨拶があった。

続いて、土木学会からの報告として駒田智久シビル NPO 推進小委員会委員長から、両組織の紹介、NPO や特にシビル NPO の活動と課題についての説明、更に今後の小委の活動の紹介があった。

その後、CNCP からの報告として内藤堅一事務局長から、CNCP の成立ちや、会員・組織等の現状が説明され、サービス提供、地域活動推進および事業化推進の 3 部門の活動の状況が紹介された。

◎地域からの報告；以下の 3 編の報告があった。

○新川達郎 同志社大学教授による東北地方全般のシビル NPO の活動の実態と課題

- ・同地方の NPO の組織状況は全般に低調、シビル NPO も同様であるが、その形態は多様である。
- ・河川、水辺、環境関連の活動及びまちづくり関連の活動(特に復興関連等)の紹介があった。
- ・同地域におけるシビル NPO の活動の特徴として、都市への集中、但し全国的な比較での相対的少なさ、地縁的な活動の存在、母数の少なさに伴う技術専門家の参加の少なさが挙げられる。
- ・上記を踏まえて、継続的な専門家の支援の構築、各分野の力量アップ、即知的な現地支援のネットワークづくり等が今後の地域課題の解決に向けて必要。

ONPO 法人とうほく PPP・PFI 協会 川村専務理事による同協会の活動の報告

東北と言う人口・財政の厳しい地域において「公民パートナーシップによるまちづくり」しかないと思定めの活動。東北 PPP 推進協議会の場も活用しながら、官公も巻き込んで様々な動きをしている。今後は PPP・PM 人材育成、公的施設の有効活用、コンパクトネットワークのモデル事例、国際リニアコライダー計画の推進とまちづくり支援を予定している。

ONPO 法人水・環境ネット東北 佐々木正人代表理事による同 NPO の活動の報告

水環境に係る幅広い市民等の交流を通じて、その保全と創造を図ることを目的として活動。東北水環境交流会などの交流活動、「東北の多自然川づくり研修会」の開催や「杜の都・広瀬川」の出版等の企画研究活動及び「広瀬川親子自然学校」とうの教育活動に励んでいる。

◎意見交換

報告の場の教室型配置を会の名称に相応しく口の字型にして自由な意見交換を行った。

○シビル NPO 活動の単位と連携

- 行政区に捉われず、流域や街道筋単位で活動領域を定めるのが良い。
- 連携・つながり、それを担保するネットワークづくりが重要である。その媒体として環境やまちづくりがある。但し、それを担う人材育成が重要。

○個別各論

- 行政の係わりが重要。それが無いと前に進まない。
- 分野として、シビル分野においてもボランティア・ガイドが考えられる。また、インフラメンテの関係ではコンサルとは異なる独自の展開を図るべきである。
- 人材の補給が重要であるが、自ら手を動かすことに躊躇を感じる人もいる、何らかのインセンティブを必要とする考え、何らかの興味を持てば参加できる等の色々な考えが提示された。何れにしても何らかのマッチングが必要。
- 東北地域の特性として活発な地縁団体の活動が言われているが、NPO との関係性をどのように考えるか整理が必要。

今回の催しは既にシビル NPO 活動をしている皆さんとの意見交換、それには参加されていないがこの種の活動に何らかの興味と関心を持たれている方々へのアピール、の双方を意識したものであった。前者については一定のご参加を得たが、後者については関係者を除いて僅かであった。このような背景も含めて、今回の開催については専ら東京サイドが取り仕切ることとなった。何れか先にこのような催しが改めて開かれるときには、専ら地元の方で開催されるようにならなければと考える。

現地の各方面から「後援」のご支援を頂いた。ここに感謝の意を表します。特に土木学会東北支部には「後援」も含めて、事前の段階から当日の諸々まで含めて多大のご支援を頂いた。ここに大いなる感謝の意を表します。



報告：駒田智久（土木学会シビル NPO 推進小委員会委員長・CNCP 理事）